

も巧な表情で「いやどうも失禮しました」などというて局面を繕つて置くやうな手を心得、またそれを用ゐるのが得意であつた程に老成の功を積んだことは、晩年の君に接した誰もが知つて居ることである。

この強氣が弱い人、殊に婦人に對しては人が違つた程に穩かになり、言葉遣ひから仕草の末まで、至らざるなき細やかな注意を拂ひ、常に愛愍保護の手を加へる煩を厭はなかつた。従つて當然の報酬として、大概の婦人から敬愛せられたやうである。この種の實例を擧げてゆけば數限りない。數年前から『女百題』と題する隨筆風の本を書く用意があつたやうだが、その實現を見ずにしまつたのは惜しいことである。昨年臺灣旅行から引上げる時に、臺北で依頼されて旅中所感を放送し、別けてお世話になつた旅館の女中諸君に感謝するといふ言葉で講演を結んで喝采を博したと君自身の口から聞いた。恐らくこの種の講演に於てそんな挨拶をした人は從來あまりあるまいし、將來ひよつとしたらこれに倣ふものもあらうから、誠に劃期的の放送といふべきであらう。君をよく知らぬ人からは時に態とらしいとけなされたり、口の悪いのは戲談半分に、「君のは變態だ」などともいうたりしたが、畢竟強いものに對する強氣の反面として現はれた君の性格の美點に外ならぬ。従つて同じく婦人というても、強氣の婦人に對してもやはり同様であつたかどうかは疑問である。よく人の世話をし、億劫がりであり乍ら常に他人の面倒を見たのも、またこの美德の致すところであるが、その間にも兎角平調に満足せず、また細かいことまで氣のつくところから、時にはひどく叱りつけたり、皮肉をいひなどして、世話を受けるものをして君の眞意のあるところを疑はしめるやうなこともあつた。誰かが評して偽悪者の稱を奉つたのも、必ずしも故ないでもない。

濱田君は物事を處理するのに、慣例とか行懸りとかに拘はらず、その時々には於て最も適當であり、合理的である